

も  
と

キラリと光る事業所を応援！

まっもと<sup>39</sup>

MOTTO Matsumoto

## 株式会社 安藤木工所

### 前身は200年前の太物問屋

安藤木工所は、建具の技術を誇る職人集団です。

木に精通した経験と技で、学校や高齢者福祉施設などの公共施設、店舗など商業施設、また個人住宅で建具や家具の製作を請け負っています。安曇野市堀金の三田工業団地に4,000坪の敷地を持ち、最新設備と伝統的技術でこだわりの依頼にも応えています。

四代目の安藤寿郎社長（50）は「建具を作る指物師は、100分の1と言ってもよい精度で、吸いつくようにピタッと木を合わせます。美しい物を作りますよ」と誇らしげに話します。約20人の社員は20歳から72歳まで。物作りの仕事を意気を感じて、県外から入社した社員も半数以上です。

安藤家の商売のルーツをたどると…。なんと創業は199年前の文政4（1821）年という驚きの歴史がありました。始まりは松本城下、本町5丁目の「太物問屋」です。

「太物」とは、細い絹糸に対して綿糸・麻糸が太いという意味。安藤社長は「木綿を扱う商売を大きくやっていたようですが商売が傾き、私の曾祖父が建具業を始めました（大正5年）。昭和27年に祖父が庄内町へ、昭和60年には父親が現在の安曇野へと



工場の拡大とともに移転しました」。建具の主流が木枠からアルミサッシへと時代が変わっても、手仕事でしか作れない木工製品で、心地良い暮らしに貢献してきたのです。

「建具工、家具工をはじめ左官や大工など、建築関係の職人はどんどん減っています。しかし、この先もなくてはならない職業です。日本人の誇りである職人の技術を、若い人がどれだけ継承してくれるかに、建築業界と住環境の未来がかかっています」という社長。興味のある若い人には「一人前になるまでは大変だけれど、自分の成長が実感できる素晴らしい仕事。ぜひ一緒にやりましょう。建築業界は日々変化があり、建具・家具も楽しいですよ」と話すのです。



❶江戸時代末期の看板が「太物問屋」の歴史を物語る❷整理が行き届いた広い工場建屋内❸工場長の牛越千明さんが「がらり」という空調機能を持つ建具を製作中❹目に見えない所にも技を駆使するのが建具屋の仕事❺堀金工場敷地内の鳥居（お稲荷様）と安藤寿郎社長

株式会社 安藤木工所

☎【工場】安曇野市堀金三田3558-4

☎0263-72-8262

☎【本社】松本市庄内1丁目6-21

☎0263-25-0156